

6 体育授業改善・体力向上

内容 運動が楽しいと感じる体育の授業改善や体力向上の取組
や実践



1 取組に係る本校児童の実態について

- 全国体力・運動能力状況調査の結果から、5種目が全国平均を上回るなど、運動能力においては高い部分があり、総運動時間も多い傾向にある。
- 一方で運動が今一つ楽しめていない子や日常的に運動に親しんでいない子の姿も見られ、それに伴った体力・運動能力の個人差が目立つ。
- 運動に対する意欲の低下や友達とのコミュニケーション能力の低さなども課題として見られる。

2 目的（取組の意義）について

体力向上につながる『運動が楽しいと感じる体育授業』と『望ましい運動習慣の確立』をめざして

目的	【体育の授業改善】 「七小体育」の在り方の確立	【体力の向上】 多種多様な運動に触れる機会の確保
方向性	「運動が楽しいと感じる体育授業」の追究	「望ましい運動習慣」の確立につながる活動の設定

3 内容について

内容	「運動が楽しいと感じる体育授業」の追究	「望ましい運動習慣」の確立につながる活動の設定
具体	<ul style="list-style-type: none"> ○運動のもつ「楽しさ」や「喜び」の分析と子どもの実態の把握 ○フェアプレイの導入 ○オリエンテーションの充実 ○グループ学習を軸とした課題解決型の授業の展開（競争・挑戦・克服・模倣） ○授業のオートメーション化 ○ふりかえりの充実と効率化 ○学習資料や情報の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ○新体力テストの全学年実施 ○「チャレンジ縄跳び」の実施（全学年） <ul style="list-style-type: none"> ・回数にチャレンジ ・集団跳びにチャレンジ ○「モースポ」の実施（3～6年生） <ul style="list-style-type: none"> ・短時間を利用して、年間を通して多種多様な運動に取り組む。

4 成果・課題・今後の方向性等

成果	<ul style="list-style-type: none"> ☆授業中の子ども様子やふりかえりなどから、楽しさや喜びを感じている姿が見られている。 ☆学校全体の教職員が同じ視点に立って授業づくりを行うためのスタートラインにたつことができた。 ☆フェアプレイの導入により、集団としての質の高まりが感じられるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆体育の授業や放課後の活動の時間だけでは確保することのできない運動量の確保へとつながっている。 ☆「朝学習（モースポ）＋体育の授業」をつなげ、計60分の時間を確保することができている。 ☆楽しみを感じながら運動に取り組む子どもの姿が見られ、いろんな運動経験を積むことにつながっている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ★授業改善と運動の楽しさを感じる姿の因果関係は少しずつ見えてきてはいるが、まだ不明確な部分が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ★「やらされている活動にならないような工夫」や「運動が苦手な子に対する配慮」などが必要である。
方向性	<ul style="list-style-type: none"> □CAPDサイクルを積み重ね、成果と課題をさらに明確にしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> □学年の実態や発達段階に応じて、目標や取り組み方などに、ある程度の系統性や柔軟性をもたせていく必要がある。（持続可能な七小文化の1つとして…）